

# 第6回社会教育委員会議 中間報告（概要）

## 1 協議テーマ

（仮称）地域課題に対応する社会教育～災害に向き合う地域づくりを例に～

## 2 中間報告の内容

### 2-1 協議テーマの選定について

#### <社会的背景>

- 平成30年9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震では、札幌市内においても観測史上初めての震度6弱を観測した。その後発生した北海道内全域停電は市民生活に大きな影響を与え、地震に伴う液状化等の被害により、今なお、被災した市民の中には、生活の再建途上にある方もいる。
- また、九州北部でも大雨が発生するなど、大規模な風水害といったものも全国的に頻発しており、札幌市もその例にもれず、平成26年（2014年）9月11日の豪雨の際には、道内で初めて大雨特別警報が発令され、道路の冠水や床下浸水といった物的被害が発生した。
- これまで、札幌市は比較的災害が少ないまちというイメージだったが、昨今の、全国的に災害が頻発している現状、また、現に札幌市も災害の被害に遭うというような事態になってきていることから、災害はいつ、どこにでも起こりうるという意識が市民の間にも醸成されてきている。地震のような自然災害の発生を防ぐことができないが、被害を最小限にとどめるために「防災・減災」の重要性が改めて認識されている。

#### <協議テーマ選定の背景>

- 市民の間にも、防災に対する危機意識が非常に醸成されてきている。
- 防災はあくまでも地域課題の一つ。
- 多様化・複雑化する地域課題を背景に、地域住民自らが地域課題へ向かい合うことの重要性が高まっている。
- 防災は過去の経験（北海道胆振東部地震）から、どの地域にも共通の課題と捉えることができる。
- 防災に対する方策は様々な地域課題に応用が可能である。
- 防災を通じて、目指すべき理想的な地域づくりとは何か、協議することができる。



#### 協議の方向性

- 災害対策を一つの切り口として、理想的なコミュニティ・地域づくりに向けて、社会教育の在り方を協議する

※当初「防災」という文言を使用していたが、災害が起きる前までの行動という印象が強いことから、「災害対策」という文言に変更した

### 2-2 これまでの協議内容について

#### <理想状態に関する主な意見>

- 子どもの考える力を生かすことができる地域
- 地域課題の学習機会が提供され、問題意識の共有を図っていること
- 地域住民が関わる場にアクセスすれば、繋がり合えるシステムがある
- 正しい情報を的確に捉え、適切な行動が行える
- 日常的に挨拶し合い、適度なコミュニケーションが取れる
- 地域住民全員の顔が見える地域
- 精神的支柱になれるリーダーが誕生する地域
- 災害時の住民一人一人の行動や役割が明確な地域
- 地域住民が多様性について理解し、多様な人々への対応能力が高いこと

#### <札幌市の現状に関する主な意見>

- 災害後に学習機会への参加が増えた現状としては、行政が震災後、積極的に学習機会の場を提供した結果ではないか
- 人と人との繋がりが薄く冷たくなってきている印象がある。人と人が顔を合せて付き合う機会が減っている。
- 自分の生活スタイルと町内会の活動が合わない人も多い。現状にあった身近な関係づくりについて考える必要がある。
- 世代によってコミュニティが分断されている
- 札幌は防災意識が低いと言われていたが、子どもたちへの防災教育は行われている。大人に対する防災教育を考える機会が必要ではないか。
- 地域住民同士がお互いのことを分かっていることが重要だと思うが、マイノリティに対する理解、意識がない人がまだいる。

#### 第6回社会教育委員会議

- これまでの議論をもとに「課題等」について整理。⇒詳細は資料2

## 3 今後のスケジュール

	内容
第6回会議 (8/28)	中間報告及び課題の整理
第7回会議 (10月予定)	課題解決に向けた社会教育の在り方（提言）について協議① ※報告：生涯学習推進構想令和元年度実施状況
第8回会議 (12月予定)	課題解決に向けた社会教育の在り方（提言）について協議②
第9回会議 (1～2月予定)	報告書（案）について協議① ※協議：サタデースクール令和3年度方針案及び令和2年度実施状況
第10回会議 (3月予定)	報告書（案）について協議② ※報告：令和3年度教育費予算、サタデースクール令和3年度方針